

音声はミュート設定でお願い致します。  
ミュートについては画像をご参照ください。



※不具合があった場合  
ZOOMのチャットまたは  
西南相談支援セン  
ター（TEL053-597-  
1124）までご連絡をお  
願い致します。

令和2年度  
西南エリア自立支援連絡会  
活動報告

# 西南エリア連絡会の構成

# 目次

- 自立支援協議会西・南エリア連絡会について
- 各部会の活動報告
- 地域課題への取り組み
- 個別支援から連絡会活動へつながったケース
- 来年度の活動について

報告・提案

**全体会**  
定例年2回  
(その他必要時に開催)

地域課題について多角的視点から協議を行い、決定する場。

【メンバー】 相談支援事業所、障がい者相談員、当事者団体、障害福祉サービス事業所、障害児入所施設、民生委員、地区社会福祉協議会、スクールソーシャルワーカー、医療機関、基幹相談支援センター(オブザーバー)

報告・提案

**ワーキンググループ**  
随時開催

専門的立場から地域課題の検討を行い、全体会に報告する。

【メンバー】課題の内容により必要なメンバーを事務局が招集

**事務局**  
毎月開催

エリア連絡会の準備・運営、各部会からの課題の抽出、市や他機関からの依頼事項の対応、困難ケースの検討等を行う。

【メンバー】西区・南区社会福祉課、西南相談支援センター、基幹相談支援センター(オブザーバー)

**事例検討部会  
(西エリア部会)**

ネットワークづくり、啓発、人材育成を目的に、区単位の活動を行う。

【メンバー】西区構成員  
事務局  
基幹相談支援センター(オブザーバー)

**地区部会  
(南エリア部会)**

ネットワークづくり、啓発、人材育成を目的に、区単位の活動を行う。

【メンバー】南区構成員  
事務局  
基幹相談支援センター(オブザーバー)

西エリア活動

西南共同開催

南エリア活動

エリアの子ども支援についての検討などを行う。

【メンバー】障がい児支援に携わる支援者、事務局、基幹相談支援センター(オブザーバー)

**子ども部会**

エリアの相談支援体制についての検討、研修などを行う。

【メンバー】相談支援事業所、事務局基幹相談支援センター(オブザーバー)

**相談支援部会**

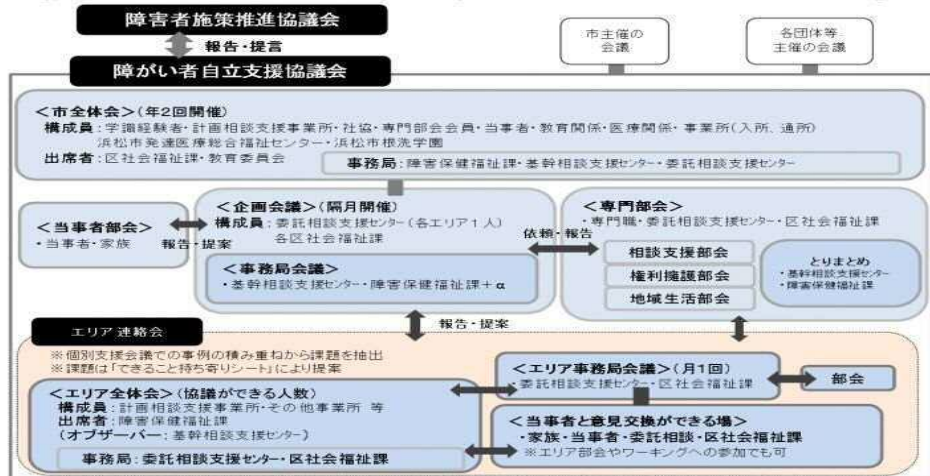
**ネットワーク会議**  
年1回程度

エリア全構成員へ向けての報告及び研修などを通して構成員間の交流を図る。

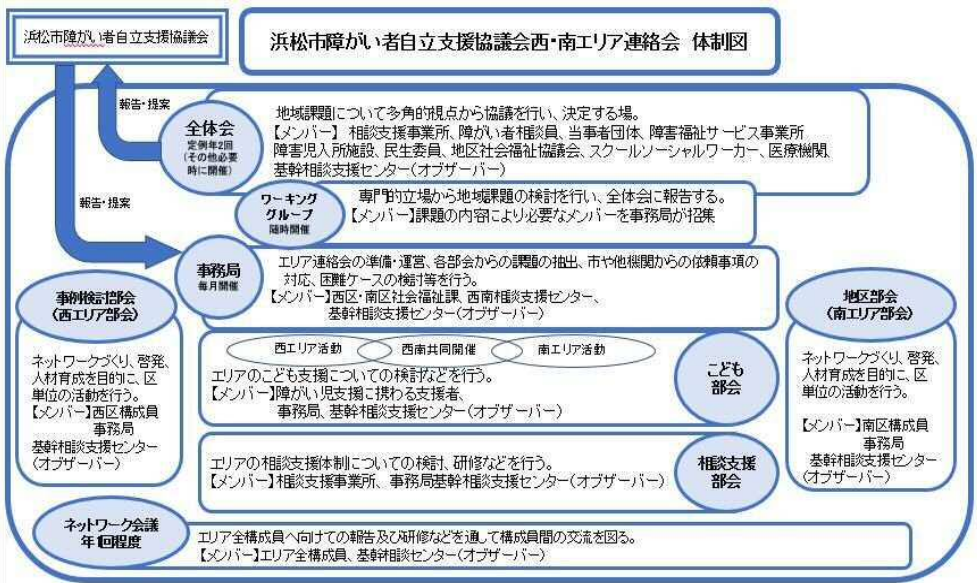
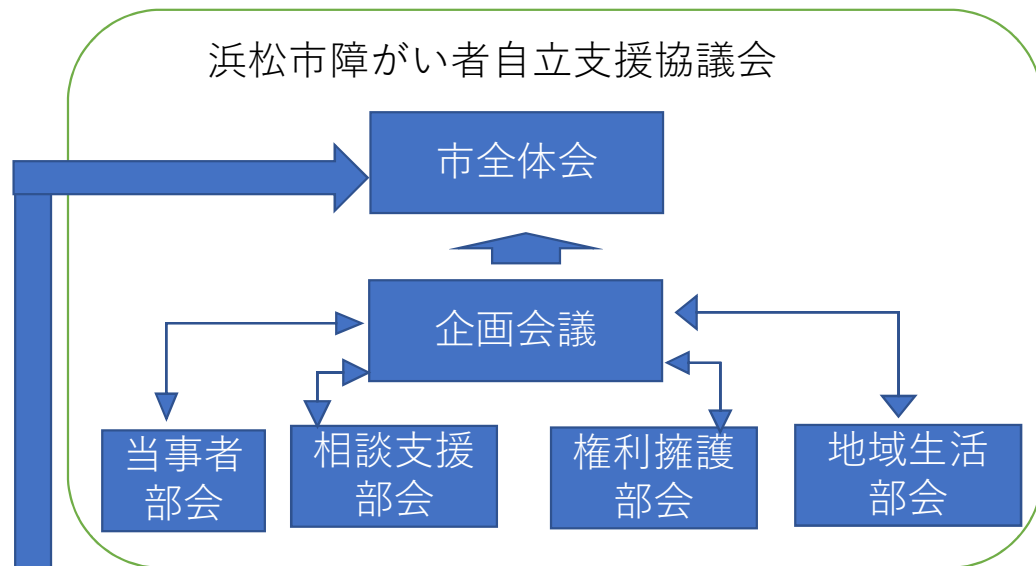
【メンバー】エリア全構成員、基幹相談センター(オブザーバー)

浜松市障がい者自立支援協議会

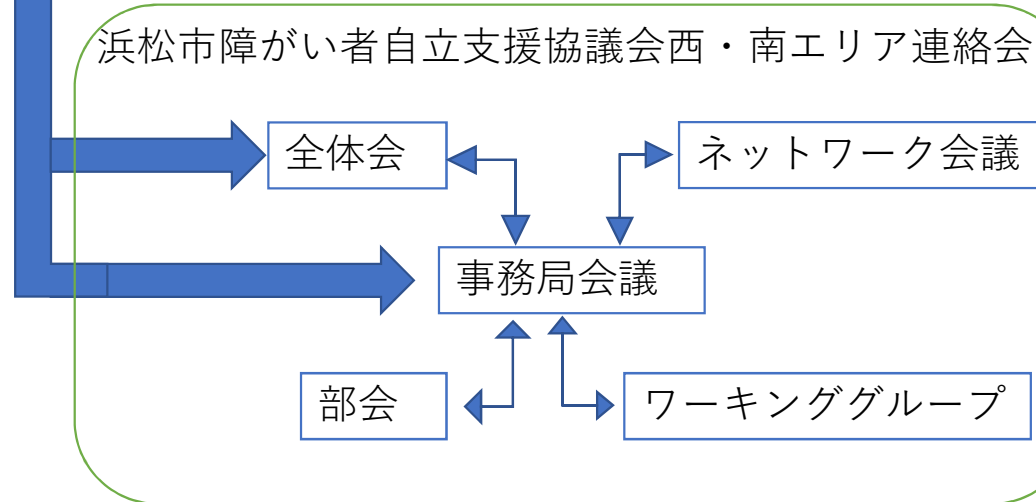
目標：「支え合いによって、住み慣れた地域で希望を持って安心して暮らすことができるまち」



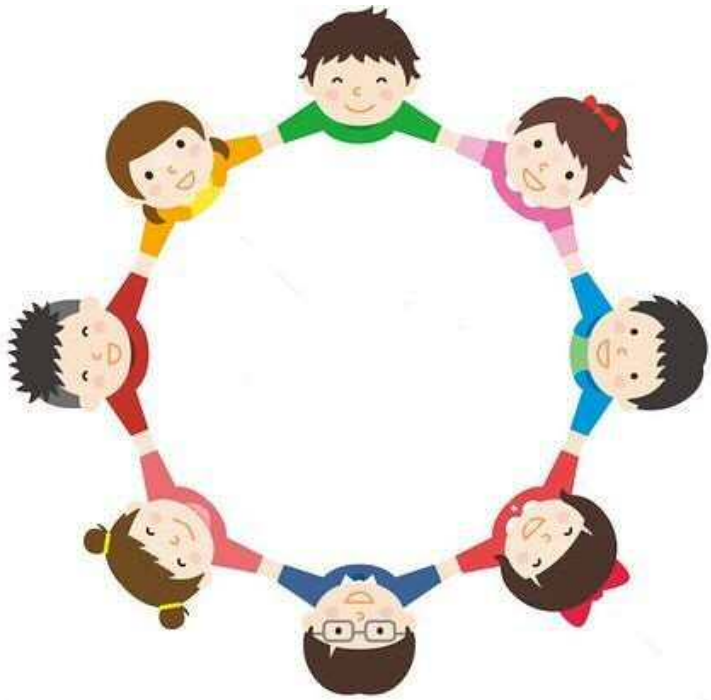
浜松市障がい者自立支援協議会



浜松市障がい者自立支援協議会西・南エリア連絡会



# 活動のスローガン(案)



つながりあって

なん

南でもやってみ

せい

西

# 各分会からの報告



こども部会

## 部会設置の経緯

- 西区連絡会「こども部会」、南区連絡会「児童部会」として活動していた。
- こども支援は共通テーマであったが、それぞれの取り組みの経過があったため、2つのグループで活動。
- 西南エリアとして、共通の活動に取り組んでいく。

## 【目的】

児童支援を行う機関同士が顔の見える関係づくりを行い、子どもを取り巻く現状について様々な視点から課題整理を行う。また研修や事例検討により、支援への理解を深め課題解決に向けて支援の隙間を補え合えるような協力体制を構築していく。

## 【こども部会（西区）活動内容】

- ★「できること持ち寄りシート」からの課題整理★
- ★インフォーマル資源の発掘、資質向上のための研修★

- 課題整理における各機関の役割分担と研修について協議。
- WEB研修「愛着障害と家族支援」
- 研修の振り返り・インフォーマル資源の発掘・パンフレット作り。

## 【こども部会（南区）活動内容】

★地域の事業所を知ってもらおう！★

- 放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成。

## 【評価】

- なぜ虐待をしてしまうのか？子どもを含めた家族支援が必要なケースが増えているなか、西のWEB研修では愛着障害の児童・保護者家族への関わり方を具体的に知ることができとても勉強になったという意見が多く出ている。【西区】
- 南では例年事業所ツアーを行っていたが、コロナ感染の影響もあり今年度は児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所のオリジナル冊子の作成をすすめている。【南区】

相談支援部会

## 部会設置の経緯

- 新設の部会。
- エリア内の相談支援事業所（計画相談）との連携、市協議会相談支援専門部会との連携を通して、西南エリアの相談支援体制の構築を目指す。



## 【目的】

エリアの相談支援体制及び地域課題についての検討、相談支援事業所間の連携強化、人材育成を行う。

## 【活動内容】

- 第1回 テーマ①「西・南エリアにおける相談体制の課題」、②「令和2年度の活動内容」、としてグループワークを行った。
- 第2回 テーマを「西・南障がい者相談支援センターと計画相談支援事業所との連携について」とし、事例を通して、①連携のタイミング、内容 ②緊急連絡体制 について意見交換を行った。会場での参加とZOOM会議を併用した。
- 第3回 テーマを「不登校、引きこもりへの対応」とし、事例検討を行った。会場での参加とZOOM会議を併用した。

## 【評価】

計画相談支援事業所の中にはセンターとの連携方法に戸惑う事業所もあったが、第一回第二回の相談支援部会の中で話し合うことにより、お互いの役割の整理ができた。

また、第一回では会場で西区・南区の事業所が実際に顔を合わせることができ、第二回第三回ではZOOM会議ではあるが意見交換、事例検討ができたのでセンター間、相談支援事業所間の連携強化につながった。

# 事例検討部会

## 部会設置の経緯

- 西区連絡会から継続の部会。
- 事例検討を実施。構成員の研修の機会となっていた。
- 施設見学会を実施するなど、普及啓発及び構成員の交流の機会ともなっていた。

## 【目的】

ネットワークづくり、啓発、人材育成を区単位の活動を行い、事業所間連携を強化していく。

## 【活動内容】

令和2年10月28日、29日

コロナ禍での生活で本人や支援者の役割について

## 【評価】

コロナ禍のため、施設見学会は中止。事例検討は開催を2回に分けて開催する。

コロナの影響で収入が減る、利用者も自宅待機で不安になる声が聞かれた。

次年度に向けた事例検討会の在り方を再検討していく。

地区部会



## 部会設置の経緯

- 南区連絡会から継続の部会。
- 地域の支援者の連携強化、障害理解の促進を通し、障がいがあってもなくても住みやすい地域づくりを目指す。

## 【目的】

『知り合い、ふれあい、繋がろう』を共通テーマに各地区単位の活動を通して、障害を持つ方も住みやすい地域作りを考える。

## 【活動内容】

- ・ **五島・河輪地区**

各所属における活動状況に関する意見交換

- ・ **飯田・芳川地区**

食事会の検討→コロナウィルスクラスター発生から中止。

- ・ **可美・新津・白脇地区**

地区部会を通してできたつながりを利用した活動報告会開催。

## 【評価】

- コロナ禍であったため、例年のイベント参加や、事業所のボランティア活動が中止となった。
- 各エリアにて、活動内容を検討。食事会や、施設見学を検討するが、クラスターの発生などから実施には至らず。
- 可美・新津・白脇地区でのシンポジウム（Web併用）では「それぞれの立場で活動状況を発信していただき、視野を広げることができた」との意見が聞かれた。

# 事務局會議

## 【目的】

エリア連絡会の準備・運営、各部会からの課題の抽出、市や他機関からの依頼事項の対応、困難ケースの検討等を行う。

## 【活動内容】

地域課題、部会報告、今後の活動についての協議。

## 【評価】

- 各部会から上がった課題について、協議する場や活動につなげる事ができた。
- 個別支援からの地域課題の抽出、地域の困難ケースの把握を行い、エリア連絡会活動につなげていく。

全体会



## 全体会 設置の経緯

- 地域課題の協議がしやすいよう、少人数での設置。  
（従来の全体会は全構成員対象であったため数十人規模であった）

## 【目的】

地域課題について多角的な視点から協議を行い決定する。  
西・南エリア連絡会の活動について協議を行い決定する。

## 【活動内容】

活動計画（案）、体制図（案）の承認。書面決裁にて実施。  
エリア連絡会活動の報告。WEB併用開催。  
市協議会報告、西南エリア連絡会活動の年間報告。

## 【評価】

- ・ エリア連絡会の運営や地域課題の協議の時間を増やしていきたい。
- ・ 連絡会スローガンへの意見をいただき、決定することができた。

ネットワーク会議

## ネットワーク会議 設置の経緯

- 全体会が少人数に再編成されたことに伴い、全構成員への活動報告、研修、交流の場として設置。

## 【目的】

西・南エリア全構成員への活動報告・連絡及び交流を行う。

## 【開催実績】

令和3年3月 WEB配信による開催。令和2年度活動の報告。

## 【活動の評価】

- ・ 年度初め、年度途中の開催ができなかった。
- ・ **WEB**配信での開催はできたものの、研修やグループワークができず構成員同士の交流が図れなかった。

ワーキンググループ



## 【開催実績】

令和2年8月 コロナワーキンググループを実施。

## 【活動の経緯】

- 令和2年6月にエリア内の福祉サービス事業所にコロナ対応状況のアンケートを実施。
- アンケートの結果、事業所が集まり情報交換する機会が少なくなっていることが判明。
- 就労訓練事業所を対象とし、情報交換の機会を設けた。

## 【活動の評価】

- 情報交換や共有という点で、各会議体の補完的な役割を果たすことができた。
- エリア内の福祉サービス事業所同士の連携強化が必要という課題が見えた。

地域課題への取り組み

# 防災アンケート

- 昨年度から、連絡会の中で、防災については度々キーワードとして挙がっていた。
- 西・南となり、防災は共通の課題としてあり、連絡会として取り組むこととする。
- 防災の中でどこに、重点を置くかを検討するため、全構成員を対象にアンケートを実施。

# 防災アンケート

## 【開催内容】

- 防災について各部会で意見が出ているが、集約ができていない状況。論点と取り組み方針の整理が必要。

## 【開催実績】

- 令和2年10月から12月にかけて西南エリア内事業所アンケート実施

# 防災アンケート

## 【評価】

- アンケート結果より、「避難所」「要支援者」についての関心を高く持たれていたが、現在の体制についての認識が違い、改めて確認が必要。
- 上位2項目以外は突出した項目はなく、関心の広さをうかがわせる結果となった。エリア連絡会として取り組むテーマを検討する必要がある。

## 【アンケートキーワード】

集合場所・液状化・帰宅困難者・警戒宣言・要配慮者

災害伝言ダイヤル・災害伝言板・集中豪雨・ハザードマップ

避難勧告・避難所、二次避難所・避難道路・台風・高潮

災害拠点病院と後方医療施設・トリアージ・避難場所

防災行政無線・防災組織・自助・共助・公助・防災アプリ

# アンケート結果

避難場所	7	ハザードマップ	12
液状化	10	避難勧告	15
帰宅困難者	15	<b>避難所、二次避難所</b>	<b>38</b>
警戒宣言	8	避難道路	16
<b>要配慮者</b>	<b>36</b>	避難場所	27
災害伝言ダイヤル	13	防災行政無線	7
災害伝言板	20	防災組織	13
集中豪雨	20	自助	20
災害拠点病院と後方医療施設	22	共助	25
台風	18	公助	23
高潮	7	防災アプリ	10
トリアージ	4		



個別支援から連絡会活動へ  
つながったケース

# 授産製品販売会

## 【開催内容】

- 令和2年6月 西南エリア内の障がい福祉サービス事業所へのアンケート
- 令和2年7月 西区役所にて授産製品カタログ販売
- 令和2年8月 南区役所にて授産製品カタログ販売

# 授産製品販売会

## 【評価】

アンケートの結果、内職等の受注が少なくなっており事業所の活動に影響が出ていること、事業所間でコロナ対応について共有する機会が少ないこと、授産製品販売の機会が減少していることが判明した。

このことから、西区役所・南区役所での授産製品のカタログ販売を実施し、対面によらない授産製品の販売の機会を創出することができた。

# みをつくし特別支援学校

## 【開催実績】

・令和2年7月

西区、南区内の放課後等デイサービス事業所へみをつくし特別支援学校開校後の送迎についてのアンケートを実施。

・令和2年8月

浜松市放課後連へアンケート結果の報告。

みをつくし特別支援学校準備室への報告。

市協議会企画会議にて活動内容及びアンケート結果の報告。

## 【活動の評価】

- ・障がい者相談支援センターでの個別支援からエリア連絡会活動に発展させることができた。
- ・他団体への働きかけを行ったことで、放課後連での第2回アンケートの実施（第1回アンケートは令和元年度に実施）、みをつくし特別支援学校説明会への参加（12月の説明会はコロナの影響で中止）につながった。

令和3年度の活動について

## 令和3年度に向けて

- 防災アンケートの結果をもとに今後の活動について協議（ワーキンググループを検討中）。
- エリア連絡会の連絡体制を整備。
  - ※令和3年4月よりメーリングリスト運用開始予定。
  - ※エリア連絡会通信を配信予定（年数回）。

# 令和2年度 浜松市障がい者自立支援協議会

## 西・南エリア連絡会活動報告

### 【こども部会】

#### <目的>

児童支援を行う機関同士が顔の見える関係づくりを行い、子どもを取り巻く現状について様々な視点から課題整理を行う。また研修や事例検討により、支援への理解を深め課題解決に向けて支援の隙間を補え合えるような協力体制を構築していく。

#### <構成員>

児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、児童入所施設、特別支援学校、スクールソーシャルワーカー、公立小中学校発達支援コーディネーター、地区民生委員児童委員協議会、手をつなぐ育成会、行政、相談支援事業所、基幹相談支援センター、事務局

#### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

#### <開催内容>

- ・西区：毎月開催（会議、研修、事例検討会等）
- ・南区：令和2年12月 研修会（令和2年7月研修打合せ会議）
- ・西南共同開催：年度内の開催検討

#### <開催実績>

- ・西区

令和2今年度の活動について協議。

令和2年6月 今年度のスケジュール再設定と課題整理。

令和2年7月 西南エリア連絡会について、課題整理。

令和2年8月 課題整理と研修について協議。

令和2年9月 課題整理における各機関の役割分担と研修について協議。



令和2年10月 WEB研修「愛着障害と家族支援」  
令和2年11月 研修の振り返りと課題整理・インフォーマル資源の発掘パンフレット作り。  
令和2年12月 パンフレット作り・来年の年間計画・課題整理。

・南区

令和2年7月 今年度の活動について協議。  
令和2年8月 放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所の見学について協議。  
令和2年10月 放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。  
令和2年11月 放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。  
令和2年12月 放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。

<活動の評価>

・西南エリアになり西区のこども部会、南区の児童部会がひとつの部会となった形。従来より、西区、南区で活動していた経過があるため、それぞれの活動を主としながら交流を図り、西南エリアとしての活動を実施。こども部会の活動を構成員の方に多く知ってもらい、より協力体制の結びつきに繋がるとよい。

《西区》

・なぜ虐待をしてしまうのか？子どもを含めた家族支援が必要なケースが増えているなか、西のWEB研修では愛着障害の児童・保護者家族への関わり方を具体的に知ることができとても勉強になったという意見が多く出ている。

《南区》

・例年事業所ツアーを行っていたが、コロナ感染の影響もあり今年度は児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所のオリジナル冊子の作成をすすめている。

## 【相談支援部会】

### <目的>

エリアの相談支援体制及び地域課題についての検討、相談支援事業所間の連携強化、人材育成を行う。

### <構成員>

相談支援事業所、事務局

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催内容>

・令和2年8月…相談体制についての課題（相談支援事業所、センター、基幹との関係性、役割分担等も含む）検討、今後相談支援部会で行う研修内容の検討をグループワークで行う。基幹相談支援センターからの助言もいただく。

・令和2年11月…8月に希望が出た内容の研修を行う。希望が出ていなかった場合、他の内容（一例として介護保険制度について学ぶ、ケアマネとの連携事例検討など）の研修を行う。

・令和2年3月…8月に希望が出た内容の研修を行う。希望が出ていなかった場合、他の内容（一例として8050問題における成年後見制度利用にあたっての関係機関の連携など）の研修を行う。

※関係機関 相談支援事業所、地域包括支援センター、西・南障がい者相談支援センター、成年後見センター

### <開催実績>

・第一回相談支援部会…令和2年9月に実施。テーマを①「西・南エリアにおける相談体制の課題」、②「令和2年度の活動内容」、としてグループワークを行った。16名が参加した。

- ・ 第二回相談支援部会…令和2年11月に実施。テーマを「西・南障がい者相談支援センターと計画相談支援事業所との連携について」とし、事例をとおして、①連携のタイミング、内容 ②緊急連絡体制 について意見交換を行った。コロナ禍のため、会場での参加と ZOOM 会議を併用した。合わせて 16 名が参加した。

- ・ 第三回相談支援部会…令和3年1月に実施。テーマを「不登校、引きこもりへの対応」とし、事例検討を行った。今回もコロナ禍のため、会場での参加と ZOOM 会議を併用した。合わせて 名が参加した。

#### <活動の評価>

- ・ 令和2年4月に西・南障がい者支援センターが設置され、それまでの委託相談業務が新たな体制となった。
- ・ 計画相談支援事業所の中にはセンターとの連携方法に戸惑う事業所もあったが、第一回、第二回の相談支援部会の中で話し合うことにより、お互いの役割の整理ができた。
- ・ 第一回では会場で西区・南区の事業所が実際に顔を合わせることができ、第二回、第三回では ZOOM 会議ではあるが意見交換、事例検討ができたのでセンター間、相談支援事業所間の連携強化につながった。

## 【事例検討部会（西エリア部会）】

### <目 的>

ネットワークづくり、啓発、人材育成を区単位の活動を行い、事業所間連携を強化していく。

### <構成員>

西エリア全構成員、事務局

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催内容>

令和2年9月 事例検討会

令和2年11月 施設見学会

令和3年2月 事例検討会

### <開催実績>

令和2年10月

コロナ禍での生活で本人や支援者の役割について

### <活動の評価>

- ・コロナ禍のため、施設見学会は中止。事例検討は開催を2回に分けて開催。」
- ・コロナの影響で収入が減る、利用者も自宅待機で不安になる声が聞かれた。
- ・次年度に向けた事例検討会の在り方を再検討していく。

## 【地区部会（南エリア部会）】

### <目 的>

『知り合い、ふれあい、繋がろう』を共通テーマに各地区単位の活動を通して、障害を持つ方も住みやすい地域作りを考える。

### <構成員>

障害福祉サービス事業所、障がい者相談員、地区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、浜松市社会福祉協議会、事務局

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催予定>

#### ・五島・河輪地区

令和2年10月 ふれあい大収穫祭にてパネル展示。

令和3年1月 五島地区クリーンアップ作戦でのパネル展示。

#### ・飯田・芳川地区

令和2年8月 福祉サービス事業所イベントでのボランティア参加

#### ・可美・新津・白脇地区

令和2年8月 地区部会を開催。今年度の部会活動について検討。

### <開催実績>

#### ・五島・河輪地区

令和2年9月 コロナ禍における、各所属の活動状況に関する意見交換

令和2年11月 今年度の取り組みについての意見交換

令和3年2月 中止

#### ・飯田・芳川地区

令和2年9月 コロナ禍における、各所属の活動状況に関する意見交換

令和2年10月 今年度の取り組みについての意見交換

令和2年11月 中止（エリアの事業所での食事会）

・可美・新津・白脇地区

令和2年10月 コロナ禍における、各所属の活動状況に関する意見交換

令和2年11月 今年度の取り組みについての意見交換

令和3年2月 地区部会を通してできたつながりを利用した活動報告会

<活動の評価>

- ・コロナ禍であったため、例年のイベント参加や、事業所のボランティア活動が中止となった。
- ・各エリアにて、活動内容を検討。食事会や、施設見学を検討するが、クラスターの発生などから実施には至らず。
- ・各地区で話し合う中で、部会内での横のつながりを作ることが大切であるといった意見が聞かれている。
- ・部会内でのつながりから、所属での活動につながることもあり、実例をもとにシンポジウムを開催。

## 【事務局会議】

### <目的>

エリア連絡会の活動報告、運営方法についての協議。  
個別支援から挙げられた地域課題の検討。

### <構成員>

西・南エリア連絡会事務局（西区社会福祉課、南区社会福祉課、西・南障がい者相談支援センター）、

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催実績>

毎月開催。

### <活動の評価>

- ・個別支援から挙げられた課題について協議、エリア連絡会活動につなげることができた。
- ・個別支援からの地域課題の抽出、地域の困難ケースの把握を行い、エリア連絡会活動につなげていく動きを継続。

## 【全体会】

### <目的>

- ・地域課題について多角的な視点から協議を行い決定する。
- ・西・南エリア連絡会の活動について協議を行い承認する。

### <構成員>

#### ○西エリア○

相談支援事業所まど、四季の郷、あさぎり、手をつなぐ育成会、三方原病院

#### ○南エリア○

ワークショップくるみ、身体障がい者相談員、新津地区民生委員児童委員協議会、可美地区社会福祉協議会、スクールソーシャルワーカー

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催予定>

- ・令和2年7月 令和2年度活動計画の協議
- ・令和3年3月 令和2年度活動報告

上記の他、必要に応じ招集。

### <開催実績>

- ・令和2年8月 西南エリア連絡会体制、会則、活動計画の承認（書面決済）
- ・令和2年12月 市協議会報告、西南エリア連絡会活動の中間報告、キャッチコピーの検討（会場・Web開催）
- ・令和3年3月 市協議会報告、西南エリア連絡会活動の年間報告（会場・Web開催）

### <活動の評価>

- ・8月に実施した第1回はコロナウイルスの感染状況を考慮し、書面での決済となった。
- ・第2回、第3回はWeb併用での開催とし、構成員による直接の意見交換をすることができた。
- ・Webでの開催は、西南エリアの活動上の課題の一つである移動時間の短縮にもつながっており、全体会だけではなく、部会等の活動においても有効な手段



と思われる。

- ・ 必要時の開催がしやすい状況となったことで、市協議会の活動報告も適時に可能となり、エリア連絡会活動及び地域課題について、市協議会の状況を反映した、より具体的な協議が期待できる。

## 【ネットワーク会議】

### <目的>

西・南エリア全構成員への活動報告・連絡及び交流を行う。

### <構成員>

西・南エリア全構成員、事務局

### <オブザーバー>

基幹相談支援センター

### <開催予定>

令和2年11月 西南エリアネットワーク会議

- ・令和2年度西南エリア体制・活動報告
- ・グループワーク

### <開催実績>

令和3年3月19日 令和2年度西南エリア連絡会活動の報告（WEB配信）

### <活動の評価>

- ・会議体の規模から、開催方法が定まらず、年度当初・年度途中の開催が出来なかった。
- ・WEB開催にて年度内の開催が出来たものの、構成員の研修、交流の機会は持つことが出来なかった。

## 【ワーキンググループ】

### <目 的>

専門的な立場から地域課題の協議を行い、全体会に報告する。

### <構成員>

地域課題の内容に応じ、事務局が招集。

### <開催内容>

必要に応じ開催。

- ・ 個別ケースや部会等から地域課題が報告された時
- ・ 市協議会から地域課題の協議が提案された時

### <開催実績>

令和2年8月 コロナワーキンググループ

コロナにおける各事業所（就労訓練事業所）の対応と対策について意見交換。

### <活動の評価>

- ・ 各分野や所属の会議体が開催できていない状況の中で、情報交換や共有という点で、各会議体の補完的な役割を果たすことができた。
- ・ 西南エリア（あるいは西区、南区）に特化した会議体は多くはないため、エリア内の福祉サービス事業所同士の連携強化が必要という課題が見えた。

## 【地域課題への取り組み】

### 「防災アンケート」

#### <開催内容>

防災について各部会で意見が出ているが、集約ができていない状況。論点と取り組み方針の整理が必要。

#### <開催実績>

令和2年10月から12月にかけて西南エリア内事業所アンケート実施

#### <活動の評価>

- ・アンケート結果より、「避難所」「要支援者」についての関心を高く持たれていたが、現在の体制についての認識の相違もあり、改めて確認が必要。
- ・上位2項目以外は突出した項目はなく、関心の広さをうかがわせる結果となった。エリア連絡会として取り組むテーマを検討する必要がある。

## 【個別支援から連絡会活動につながったケース】

### ① 「みをつくし特別支援学校 放課後等デイサービスアンケート」

#### <開催実績>

令和2年7月 西区、南区内の放課後等デイサービス事業所へみをつくし特別支援学校開校後の送迎についてのアンケートを実施。

令和2年8月 浜松市放課後連へアンケート結果の報告。

みをつくし特別支援学校準備室への報告。

市協議会企画会議にて活動内容及びアンケート結果の報告。

#### <活動の評価>

- ・令和2年5月にみをつくし特別支援学校開校後の放課後等デイサービスの送迎の有無についての個別相談（※1 障がい者相談支援事業）があり、その内容を受け、6月に浜松特別支援学校、浜名特別支援学校へヒアリングを実施した（※2 相談支援機能強化事業）。
- ・エリア連絡会事務局で協議の結果、地域課題としてエリア連絡会活動での取り組みが必要があると判断。エリア内の放課後等デイサービス事業所へのアンケートを実施した。その結果について、放課後連、準備室、市協議会企画会議への報告を行った。
- ・障がい者相談支援センターでの個別支援からエリア連絡会活動に発展させることができた。他団体への働きかけを行ったことで、放課後連での第2回アンケートの実施（第1回アンケートは令和元年度に実施）、みをつくし特別支援学校説明会への参加（12月の説明会はコロナの影響で中止）につながった。

#### ※1 障がい者相談支援事業

障がい者相談支援センターとしての個別相談事業。

#### ※2 相談支援機能強化事業

障がい者相談支援センターとしての連携強化事業。

（例 事業所へのヒアリング、研修の講師 など）

## ② 「西区役所・南区役所 授産製品カタログ販売」

### <開催内容>

令和2年6月 西南エリア内の障がい福祉サービス事業所へのアンケート。

令和2年7月 西区役所にて授産製品カタログ販売。

令和2年8月 南区役所にて授産製品カタログ販売。

(令和2年8月 コロナワーキンググループ実施。 ※後述の「ワーキンググループ」で報告)

### <活動の評価>

- ・令和2年度に入り、障がい福祉サービス事業所でのコロナ対応状況の把握のためアンケートを実施。
- ・内職等の受注が少なくなっており事業所の活動に影響が出ていること、事業所間でコロナ対応について共有する機会が少ないこと、授産製品販売の機会が減少していることが判明した。
- ・意見交換や情報共有の機会は感染状況を見守り検討する必要があったため、西区役所・南区役所での授産製品のカタログ販売を実施。対面によらない授産製品の販売の機会を創出した。
- ・後にコロナワーキンググループも実施。コロナ影響下での連絡会活動自体に制限がかかる中で活動することができた。

## 令和2年度 西南エリア連絡会活動実績

部会名	開催時期	内容
こども部会（西エリア）	4月16日	今年度の活動について協議。
	6月10日	今年度のスケジュール再設定と課題整理。
	7月21日	西南エリア連絡会について、課題整理。
	8月18日	課題整理と研修について協議。
	9月15日	課題整理における各機関の役割分担と研修について協議。
	10月26日	WEB研修「愛着障害と家族支援」
	11月17日	研修の振り返りと課題整理・インフォーマル資源の発掘・パンフレット作り。
	12月24日	パンフレット作り・来年の年間計画・課題整理。
	1月28日	パンフレット作り・来年の年間計画・課題整理。
	2月26日	パンフレット作り・来年の年間計画・課題整理。
こども部会（南エリア）	7月29日	今年度の活動について協議。
	8月27日	放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所の見学について協議。
	10月8日	放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。
	11月11日	放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。
	12月18日	放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。
	2月18日	放課後等デイサービス事業所及び児童発達支援事業所冊子作成について協議。
相談支援部会	9月18日	部会の活動について・各事業所の現況報告。
	11月27日	委託センターと計画相談事業所の連携についての意見交換。WEB併用開催。
	1月29日	不登校、引きこもりについて事例検討。WEB併用開催。
事例検討部会	10月28日、29日	新型コロナウイルスに伴うケース報告。 コロナ禍での生活で本人や支援者の役割について（グループワーク）
地区部会（飯田芳川）	9月29日	センターの体制説明と今後の取り組みについて協議。
	10月30日	今年度の取り組みについて協議。

	11月13日	就労訓練事業所の見学（コロナのため中止）
地区部会（五島・河輪）	10月5日	センターの体制説明と今後の取り組みについて協議。
	11月30日	今年度の取り組みについて協議。
	2月15日	コロナウイルスの影響を考慮し中止。
地区部会（可美・新津・白脇）	10月7日	センターの体制説明と今後の取り組みについて協議。
	11月30日	今年度の取り組みについて協議。
	2月10日	研修「エリア連絡会を活用した地域のつながりづくり」WEB併用。五島・河輪、飯田・芳川の構成員も参加。



## 西・南エリア連絡会活動実績

### 全体会

部会名	開催時期	内容
全体会	8月	活動計画（案）、体制図（案）の承認。書面決裁にて実施。
	12月1日	エリア連絡会活動の報告。WEB併用開催。
	3月11日	市協議会報告、西南エリア連絡会活動の年間報告。WEB併用開催。

### 事務局会議

部会名	開催時期	内容
事務局会議	毎月開催	地域課題、部会報告、今後の活動についての協議。

### ワーキンググループ

部会名	開催時期	内容
コロナワーキング	8月21日	コロナにおける各事業所（就労訓練事業所）の対応と対策について意見交換。

### 地域課題の取り組み

部会名	開催時期	内容
防災アンケート	10月～12月	全構成員へ防災に関するアンケートを実施。

### 個別支援からのエリア連絡会活動

部会名	開催時期	内容
個別支援からの エリア連絡会活動	7月	西南エリア内事業所の授産製品を西区役所、南区役所にてカタログ販売。
	7月	みをつくし特別支援学校の放課後等デイサービスの送迎についてアンケート実施。

## 防災についてアンケート

### 趣旨説明

西・南障がい者自立支援協議会として、各部会の中で「防災」における課題が取り上げられています。事務局としてもこの課題に取り組んでいかなくてはなりません。

取り組みの中で課題の整理が必要となります。

このアンケートをもとに、ワーキンググループ、各部会ならびに防災部会（仮）の検討を考えていきたいと思ひます。

下記のキーワードで気になるものがありましたら、○をつけていただきたいです。

ご協力よろしくお願いいたします。 (○は複数可)

---

御所属 ( )

記入日： 令和 年 月 日

### キーワード

集合場所 ・ 液状化 ・ 帰宅困難者 ・ 警戒宣言

要配慮者 ・ 災害用伝言ダイヤル ・ 災害伝言板 ・ 集中豪雨

ハザードマップ ・ 避難勧告 ・ 避難所、二次避難所 ・ 避難道路

災害拠点病院と後方医療施設 ・ 台風 ・ 高潮 ・ トリアージ

避難場所 ・ 防災行政無線 ・ 防災組織

自助 ・ 共助 ・ 公助

防災アプリ

その他

( )

自由記述

ありがとうございました。

	計
集合場所	7
液状化	10
帰宅困難者	15
警戒宣言	8
要配慮者	36
災害用伝言ダイヤル	13
災害伝言板	20
集中豪雨	20
災害拠点病院と後方医療施設	22
台風	18
高潮	7
トリアージ	4
ハザードマップ	12
避難勧告	15
避難所、二次避難所	38
避難道路	16
避難場所	27
防災行政無線	7
防災組織	13
自助	20
共助	25
公助	23
防災アプリ	10

## その他の意見

- ・津波に関して西南と広い範囲となったのか？ 状況しっかりつかめない。
  - ・こどもたち（障がい者）の避難所で対応ができるのか？
  - ・各自治会に連絡してあってもつかめていない状況であること。
- 一応のルールを決めておくことは必要だと思いますが、実際になるとその場によって変わると思っています。
- ・避難勧告⇒最近は勧告が出る前に各自で判断して避難をと言われることもあるが、そのタイミングが本当に難しい。特に避難所で過ごすことが難しい障がい者にとって早めの避難が良いのかどうか・・・。
  - ・津波⇒キーワードにはないが、西南区にとって避けられない課題。
- 平成25年までふらっとは南区に事業所があったので、津波発生時に何をすべきか？を考えることは生命を守る上で必要だと思います。
- ・学校は、今、「暴風警報で休み」となっており、施設もそれに合わせているが「仕事」となったときにそうではないので、利用者の気持ちの切り替えが難しい。
  - ・海、港が近いので情報はどのような方法で知ることができるのか？
  - ・地震が起きた時避難所には行けないし、どうしようか？という相談をよく聞いていたので、わかりやすい情報の提供、公開があるとよいかなと思っています
  - ・津波対策について⇒津波の際避難所が事業所よりも海に近いこと、また児童を連れての避難所までの移動の安全性に不安がある。
  - ・わかりやすい（手間ではない）シンプルな（市）区からの説明、申請等
  - ・要配慮者避難について具体的事例を知りたい
  - ・社協としても各地域における災害時の対応やボランティアセンターの運営などで取り組むべき課題があると感じます。
  - ・家族の方から障がいのある子（人）をつれて災害時にどこに逃げればよいのか？避難所に連れていけないと話しを聞いている。  
それに対して自分自身もどうしたらよいのか？と考えてしまう。  
一緒に考えられる場があればよいと思う。
  - ・台風時の停電対策が必要かと。自助の部分大きい共助、公助としてどのようなことができるのか？気になります。  
1日、2日ならなんとかかなと思います。1週間1か月となるとどう対応するのかわからない。
  - ・地震など自然災害が多発している。また、コロナ状況の中どのように避難などを不安なことが多い。  
地域の中である程度まとめていただけるとたすかる。
  - ・災害時の学校、保護者との連携をスムーズに行うために何をすればよいのか対策
  - ・災害が起こる前（日常から）地域住民どおしの連携（かかわり）が必要
  - ・コロナ禍での防災対応
  - ・障がい者といっても様々です。環境が少しちがうだけでパニックになったり、感情がとても不安定になることはよくあります。

健常者でさえ、不安定な状態なので、避難所運営において様々な弱者を守るためのすみ分けが可能な運営をお願いします。

学校なら1階と2階を分けたり、自宅避難者にも情報が伝えられる体制を求めます。

- ・先日要支援者、訪問時（10月）障がい者の方から（親）相談あり。意識の高まりを感じた。
- ・町内の自治会で防災隊を結成している。
- ・備えておかなければいけないもの、備えておいて便利なもの詳しくわかるとありがたい。
- ・台風などによる風水害と地震による津波に備えるのが課題です。特に津波などから逃れる高い建物が無いが…。しかも誘導できるのか心配。
- ・避難勧告が出た場合、実際行動できるかどうか分からない。各家庭での備えが必要だと思っているがほとんどできていない。
- ・自助の必要性を感じています。自分の命は自分で守ると言う合言葉を基本として障がい者教育をしています。
- ・共助は、向こう三軒両隣です。日頃からの良好な関係を保つ、という合言葉が教育の第二弾です。
- ・公助はあてにするな です。
- ・液状化とはどのようなときにおこるのか？  
どのような対応をすればいいのか？
- ・安否確認、津波避難、福祉避難所  
南区、西区は大地震が発生した場合、津波の被害を直接的に受ける地域。区内でも比較的海側近くに通所事業所や特別支援学校もあり、また在宅障がい者も多く生活されている。

#### 精神科病院

防潮堤ができてハザードマップ上では、国道一号線より南で被害想定がなされるようだが、有事の時に一帯がどうなるのか。

何ができて何ができないのか等を可能な範囲で想定しておく必要を感じる。

- ・福祉避難所について、はっきりとした情報がありません。市が決めていることとは思いますが、何かの機会にすっきりさせたいです。
- ・独居の方の安否確認はだれが行うのか？
- ・避難生活について、生活の場を確保できるのか？
- ・近所の寺社など、避難場所に使えるシステムがあればなあと。
- ・車がないと避難場所に向かうのは大変。皆どうしているのかしら
- ・過去の災害において、伝言ダイヤルの利用者データを確認したい。  
また、一般の方だけでなく高齢者や障がい者、外国の方等がどの程度利用できるのかも課題だと思います。
- ・食料、薬
- ・自助、共助、公助が耳馴れない言葉で検索をしました。  
被害を最小限に抑えることが目的のようですが、具体的にどのようなことを

すればよいのか知れたらありがたいです。

- ・ 入所：福祉事務所として、登録されているが実際に地震が発生した際にどのくらいの受入れができるのか不安である。職員の出勤状況が読めない中で長期間の開所が可能かどうかその時にならないとわからない面が大きい。
- ・ 通所：送迎時に浜名湖沿いを走るため津波の被害が想定される中で適切な判断ができるようにしておかなければならないと感じています。
- ・ 現在コロナ禍であり避難についてもより配慮が必要になっていると思います。気を付けるべき点について教えていただけるとよいと思います。
- ・ 地震による津波、特に送迎中が心配
- ・ 避難所における新型コロナ対応
- ・ 避難時にへ行かず自宅で何とか暮らそうとした場合の救護物資等配布先までいけるかどうか不安です。
- ・ 避難場所の運営について、話し合うときには当事者も参加できるようにしてほしい。
- ・ 避難場所でのパーソナルスペースの確保や福祉避難室について、どのように考えられているかを知りたい。
- ・ 自宅避難（在宅避難）の方へ連絡はどのようになっているか。
- ・ 地域にどのくらいの災害弱者がいるのかの明確化はどうなっているのか。
- ・ 訓練で実際に避難所にどのくらい入れるのかやってみたい・  
（現実を想定した訓練になっていないが、大丈夫なのか心配
- ・ 二次避難所としてホテルと契約したらどうか。
- ・ 実際に避難所で過ごすとき、障がい者への配慮がどうなされているのか、不安に思います。
- ・ サービス提供時の避難誘導やサービス提供が不可能な時の利用者支援等、災害発生時の対応に不安があります。
- ・ 今後、具体的なマニュアル作成ができればとおもっています。
- ・ この地域でいざ避難するとなると、どこの避難所へいけばよいのか、安全な道すじをたどっていくことができるのか。  
とても不安でどうしてよいのかわからなくなります。
- ・ 水害、
- ・ 地区でつながることを考える方がよいのでは。
- ・ 新津地区では、減災に関する講演会を10町で参加する流れになっています。  
（新津協同センター主催）
- ・ コロナ禍での避難所運営を検討する方向で動く様ですが、当然あらゆる人たちが避難してくることを考えなければいけないと思います。
- ・ 「支えあいによって住み慣れた地域で希望をもって安心して暮らすことができるまち」を目標を掲げているので、避難所生活を検討したい。
- ・ 三方原病院も避難場所になっていると思うが普段から避難訓練として

周囲の方にも利用してもらおうなど、地域全体で取り組む必要があると感じる。

- ・ 災害の種類にかかわらず、災害が起きた時事業所や民生委員ら地域の人たちがどんな動きをするのか？
- ・ 福祉避難所として、使用することになっているが、まず避難するためどのような動きをとっていけばよいのか？
- ・ 役所と一緒に協議できるとよい。
- ・ 利用者の支援情報（ポイント）、色分けをして避難所の区別をしてもよいが
- ・ ・ ・ 提案として
- ・ 避難所のスペースが少ない。
- ・ 避難所のスペースの確保が必要。
- ・ 重度障がい者、寝たきりの方の情報が民生委員の方まで情報がおりているのか？心配になりました。
- ・ 災害時はほとんど関係あるものばかりだと思います。  
重度者の避難についてもキーワードにしてください。
- ・ 障がい者に対応できる勉強会を行っていますが、実態がつかみきれない。  
しかし個と人とのつながりを持っていく考え方が必要。